

日産車体株式会社
2019年度 決算説明
(2020年3月期)



2019年度の出来事と主な成果

【完成検査の不適切な取り扱いにつきまして】

2017年9月に判明した当社グループの車両製造工場での完成検査工程における不適切な取扱いを受け、再発防止策の実行及び見直しを継続してきた。全93項目の再発防止策が実施済みとなった。今後はそれらの項目の継続実施を徹底していく。引き続き、コンプライアンスの強化を推進し、基準・標準を順守する文化を作っていく。

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- NV200をマイナーチェンジ。歩行者も検知する衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全装備採用
当社が生産する国内向け車両が全て「サポカー補助金」対象となった
- Y62パトロールをビッグマイナーチェンジ。外観変更と新ナビゲーションシステムなどを採用

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 国内市場初期品質において、NV150、NV200が日産グループ内トップレベルを維持

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV車適合先行開発の成果として、NV200に衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全装備を採用し市場投入

決算サマリー

新型コロナウイルス感染症の影響などを受け、生産台数は大幅に減少したものの、コスト面の改善により減収増益となる

売上台数

新型コロナウイルス感染症などにより、生産活動の停滞、新車需要の急減が起こり、20.7%減の18.2万台

売上高

台数の減少などにより17.3%減の4,988億円

営業利益

売上高の減少はあったものの、生産性向上や原価低減などにより、19.5%増の93億円

親会社株主に帰属する当期純利益

アルマーダの湘南工場での補完生産終了に伴い9億円の特別損益を計上したものの、営業利益の増加などにより、4.3%増の58億円

設備投資

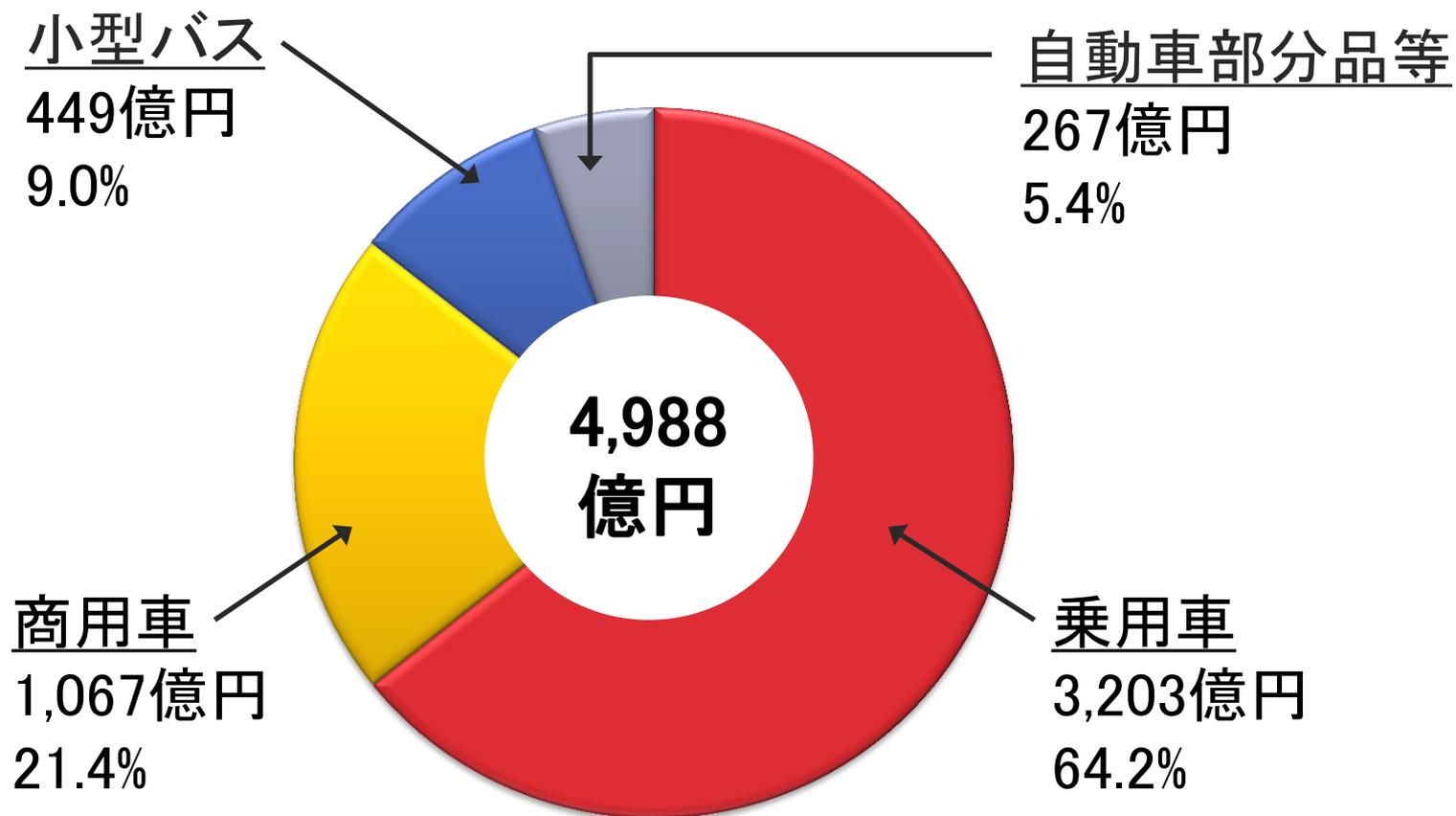
新商品、マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化及び改善などの投資を中心に約86億円

業績ハイライト

	2018年度 (2019/3)	2019年度 (2020/3)	増減額	増減率
売上高	6,028	4,988	▲1,040	▲17.3%
営業利益	77	93	15	19.5%
経常利益	81	98	16	19.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	55	58	2	4.3%

単位：億円

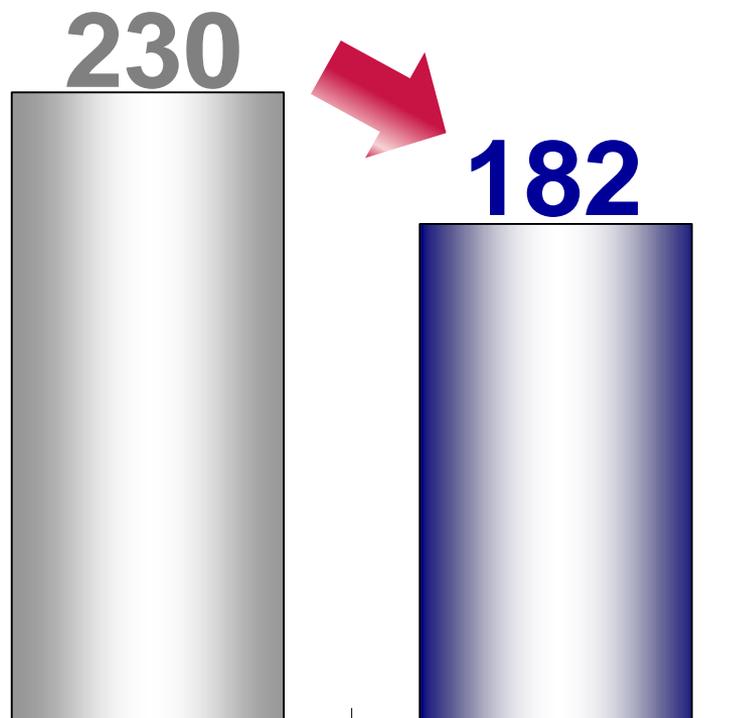
品目別売上高構成比



売上台数

売上台数は全体需要の鈍化や新型コロナウイルス感染症の影響により、前年同期比20.7%減の182千台

(千台)



'18年度

'19年度

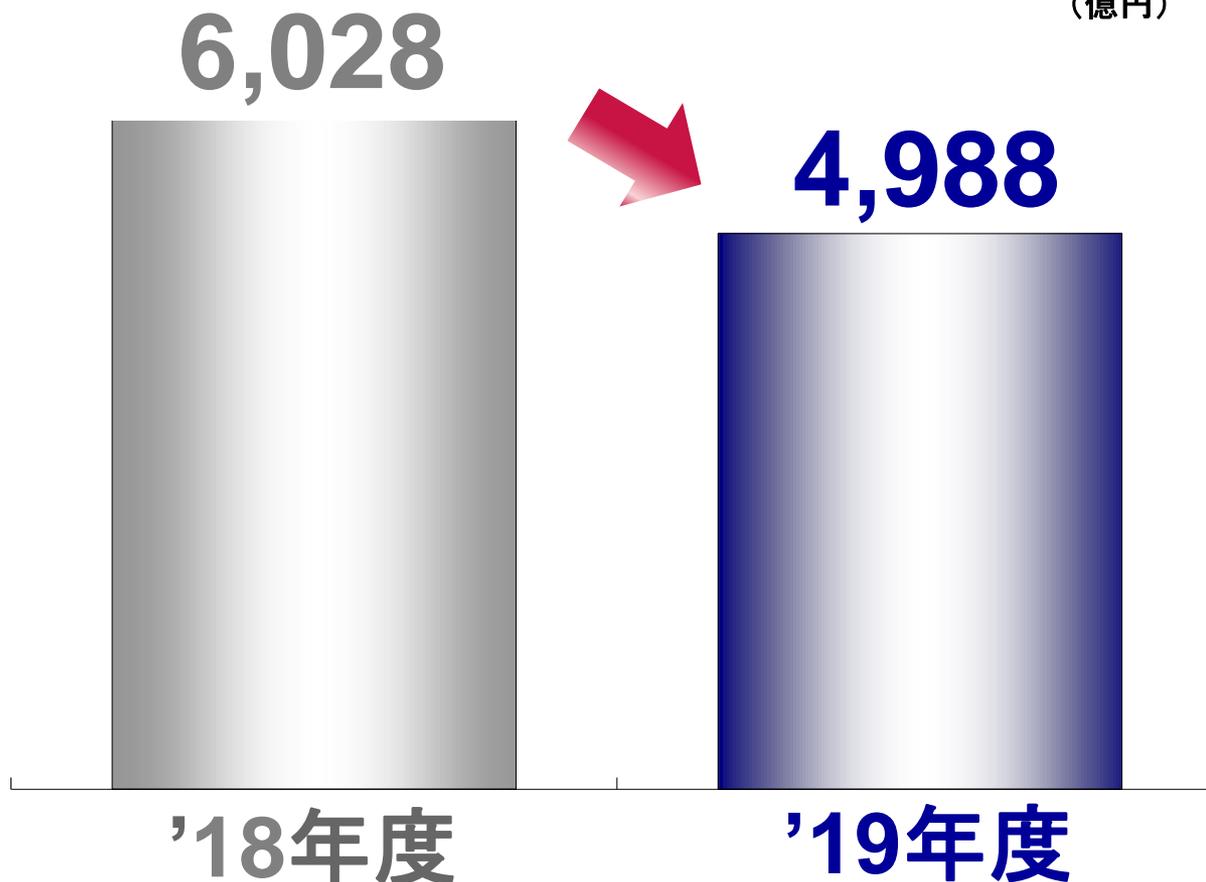
(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	127	93	▲26.2%
商用車	84	67	▲20.0%
小型バス	19	22	12.5%
合計	230	182	▲20.7%

売上高

売上台数の減少等により、売上高は前年同期比17.3%減の4,988億円

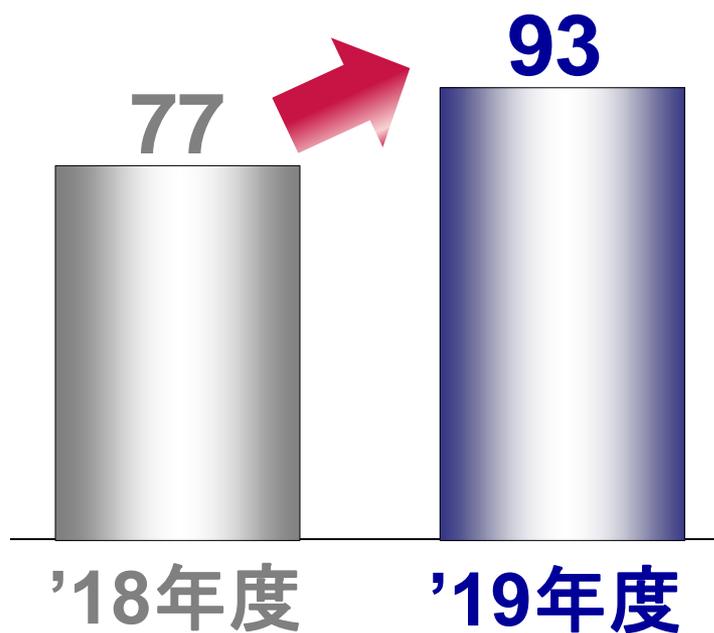
(億円)



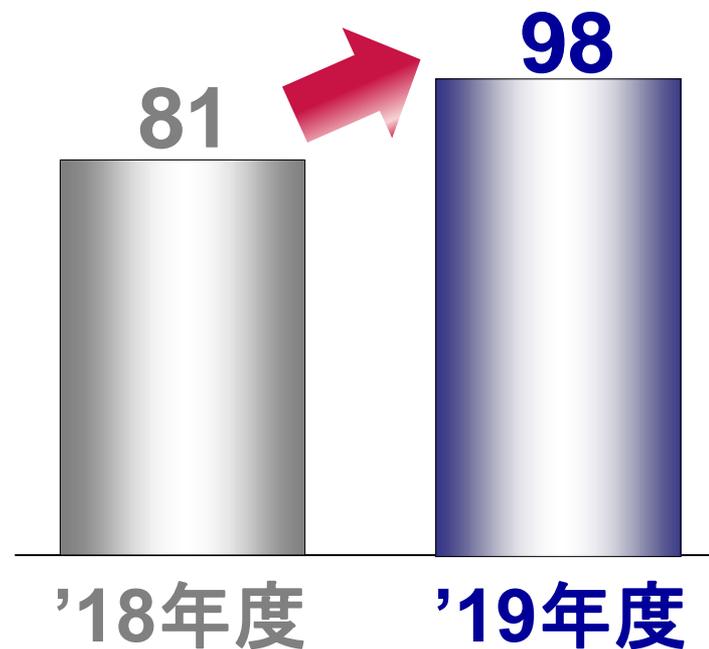
営業利益／経常利益

減収ではあったものの、生産性向上、コスト削減などにより、営業利益／経常利益とも前年同期を上回る

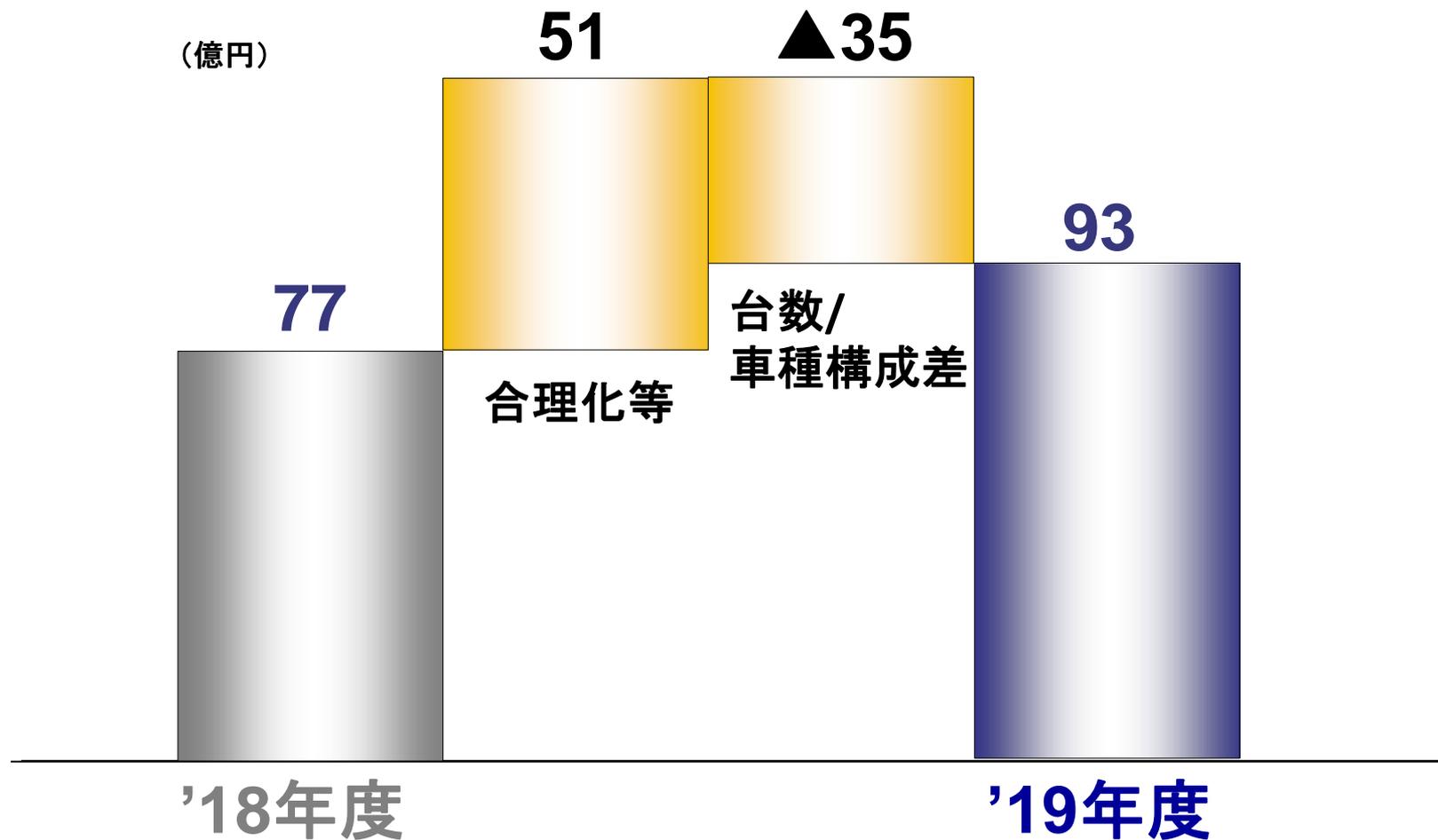
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)

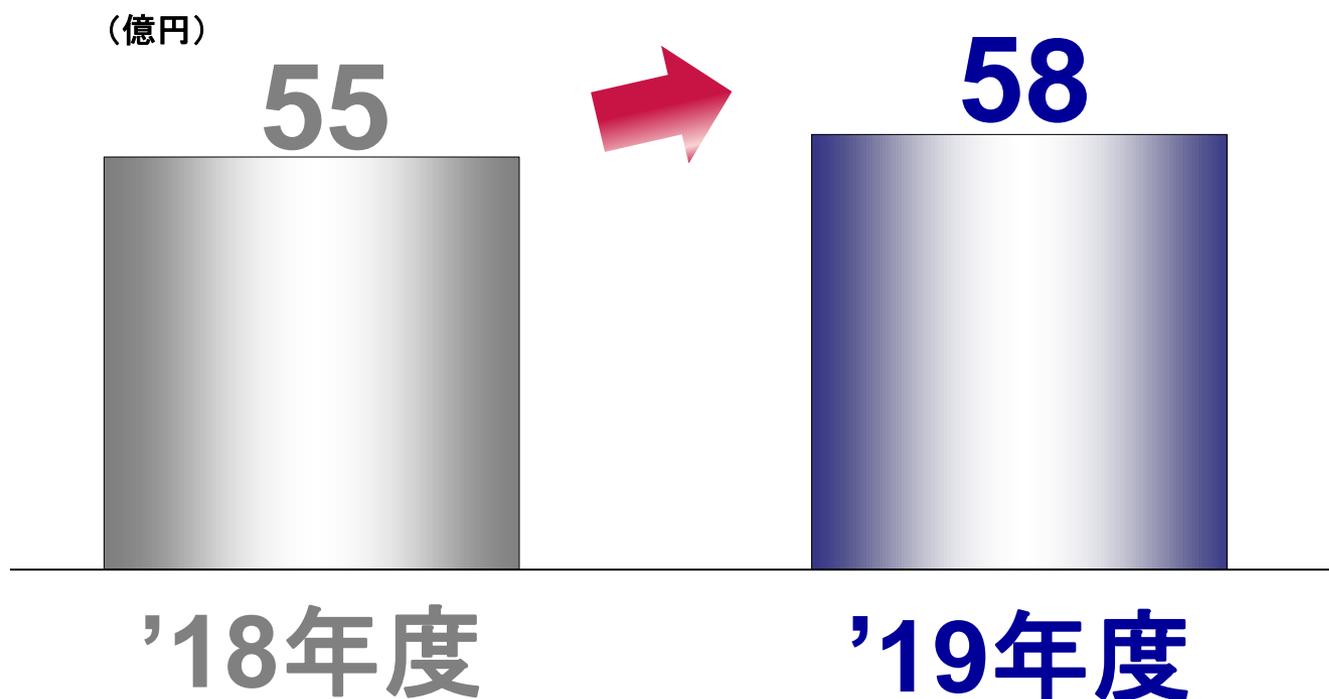


営業利益の増減要因



親会社株主に帰属する当期純利益

「アルマーダ」の湘南工場での補完生産終了に伴い9億円の特別損益を計上したものの、営業利益、経常利益の増益により、4.3%増の58億円



2020年度 連結業績見通し

2020年度の主な取り組み

<取り巻く環境>

新型コロナウイルス感染症の影響や、それに伴う自動車市場の需要減少により、非常に厳しい状況

<主な取り組み>

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 中東、北アフリカ、東南アジア、の活動を継続拡大することにより生産台数を拡大
- コンバージョンの売上拡大を目指す

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 当社の強みである開発から生産まで一貫したモノづくり体制を活かし、造りやすい設計・工程・手順を追求することにより、品質向上に取り組む

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV・フレーム車の将来を見据えて、必要な社会要件や商品競争力向上アイテム、先進ITS技術等の適用に向けた技術課題に取り組む

2020年度の業績予想

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴う、生産活動におけるサプライチェーンへの影響や、自動車市場の需要減少の影響により、今後の生産計画は極めて不透明な状況であります。このような状況におきまして、2021年3月期の連結業績予想については、現時点では合理的な算定が困難であります。連結業績予想の算定が可能になった時点で速やかに開示いたします。

株主還元

配当金

持続的成長に向け、継続的な安定配当を実施

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

